

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年7月12日(2007.7.12)

【公表番号】特表2006-527208(P2006-527208A)

【公表日】平成18年11月30日(2006.11.30)

【年通号数】公開・登録公報2006-047

【出願番号】特願2006-515591(P2006-515591)

【国際特許分類】

C 0 7 K 5/033 (2006.01)

C 0 7 D 413/12 (2006.01)

C 0 7 D 263/32 (2006.01)

A 6 1 K 31/422 (2006.01)

A 6 1 K 31/421 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 1 2 P 21/02 (2006.01)

C 1 2 R 1/60 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 5/033

C 0 7 D 413/12 C S P

C 0 7 D 263/32

A 6 1 K 31/422

A 6 1 K 31/421

A 6 1 P 35/00

C 1 2 P 21/02 A

C 1 2 P 21/02 A

C 1 2 R 1:60

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月23日(2007.5.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

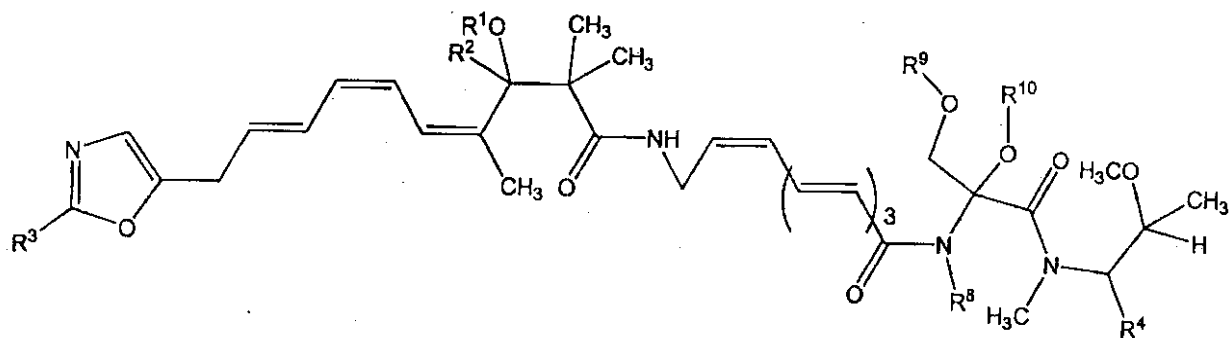
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

次式Iの化合物又は薬剤として許容されるその塩。

【化 1】



式 I

式中、

R^1 は、H、 $C_1 \sim 6$ アルキル、 $C_2 \sim 7$ アルケニル、 $C_6 \sim 10$ アリール若しくはヘテロアリール、 $-C(O)C_1 \sim 6$ アルキル、 $-C(O)C_2 \sim 7$ アルケニル、又は $-C(O)C_6 \sim 10$ アリールから選択され、

R^2 はHであり、或いは

R^1 及び R^2 が一緒になって、結合している酸素原子と炭素原子の間に第二の結合を作ってカルボニルを形成していてもよく、

R^3 は、H又は CH_3 から選択され、

R^4 は、 $-COOH$ 、 $-COOR^5$ 、 $-CH_2OC(O)R^6$ 、及び $-CH_2OR^7$ から選択され、

R^5 及び R^6 は、 $C_1 \sim 6$ アルキル、 $C_6 \sim 10$ アリール又はアリールアルキルから選択され、

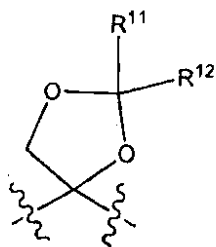
R^7 は、H又は $C_1 \sim 6$ アルキルから選択され、

R^8 は、H、OH、 $-OC(O)C_1 \sim 6$ アルキル、 $-OC(O)C_6 \sim 10$ アリール、又は $-OC(O)C_6 \sim 16$ アリールアルキルから選択され、

R^9 及び R^{10} は、H及び $C_1 \sim 6$ アルキルからそれぞれ独立に選択され、或いは

R^9 及び R^{10} は、結合している酸素原子及び炭素原子と一緒に、次式の1, 3-ジオキサラン環を形成していてもよく、

【化 2】



R^{11} 及び R^{12} は、H、 $C_1 \sim 6$ アルキル、 $C_6 \sim 10$ アリール、又は $C_6 \sim 16$ アリールアルキルからそれぞれ独立に選択される。

【請求項 2】

R^1 がHである、請求項 1 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩。

【請求項 3】

R^1 が、 $C_1 \sim 6$ アルキル、 $C_2 \sim 7$ アルケニル、 $C_6 \sim 10$ アリール又はヘテロアリールからなる群から選択される、請求項 1 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩。

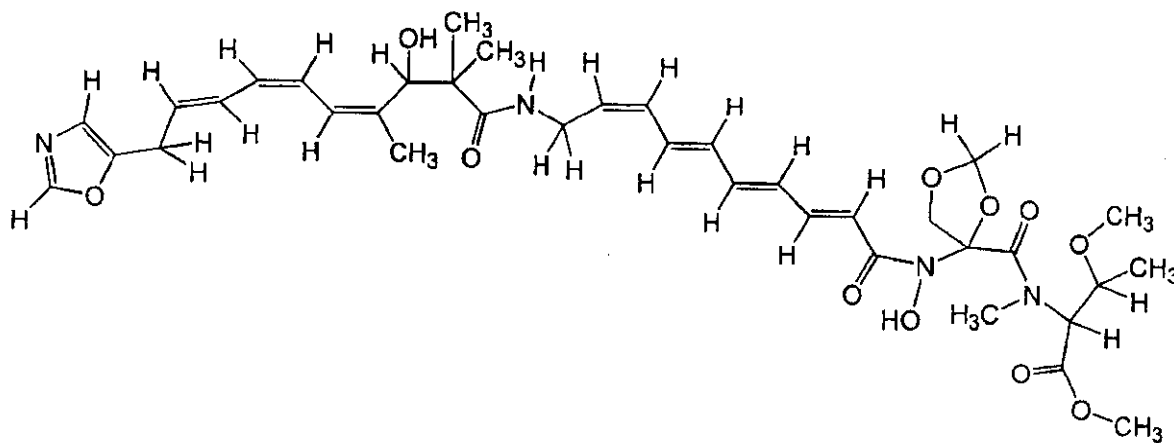
【請求項 4】

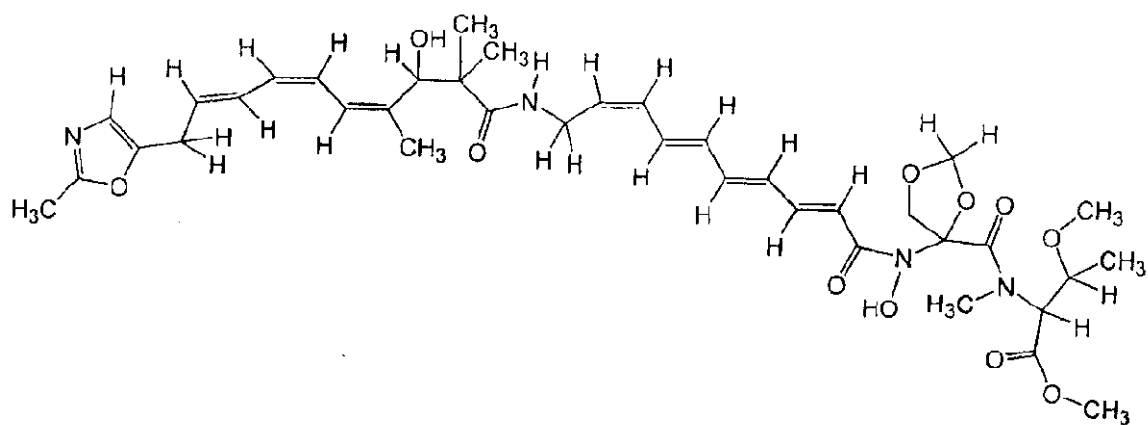
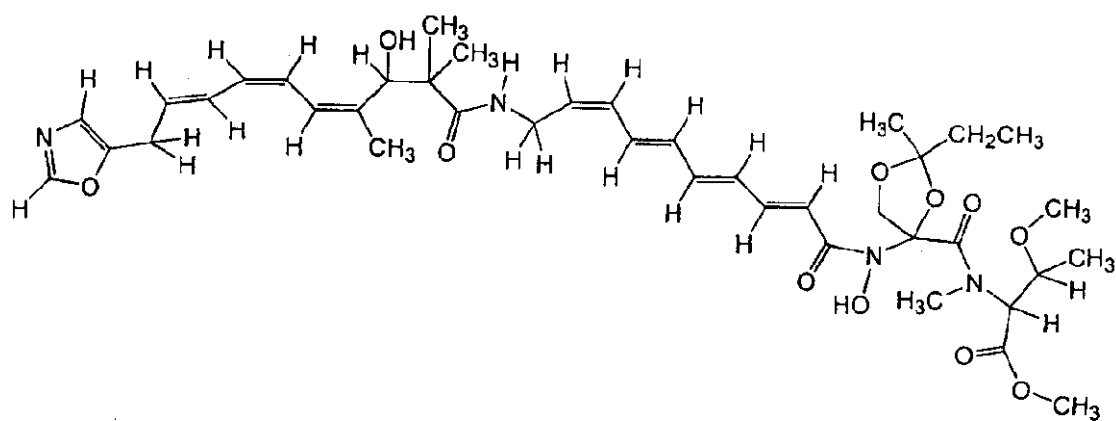
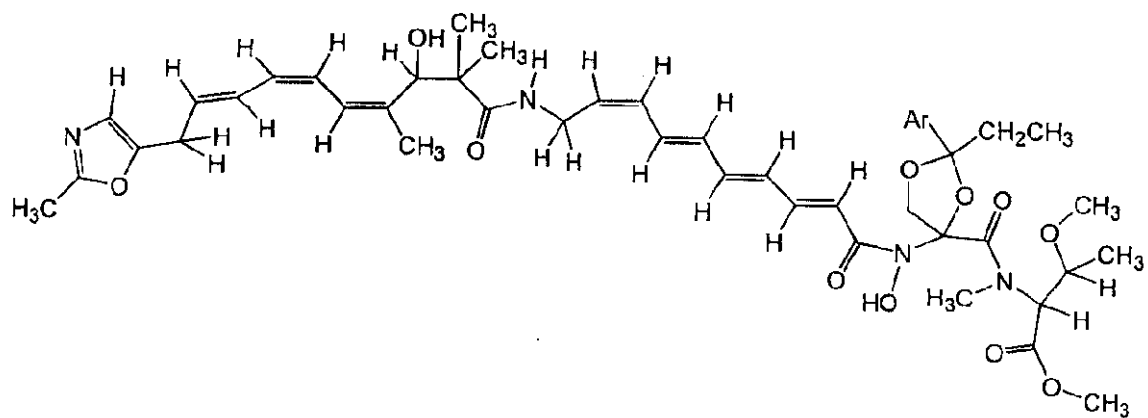
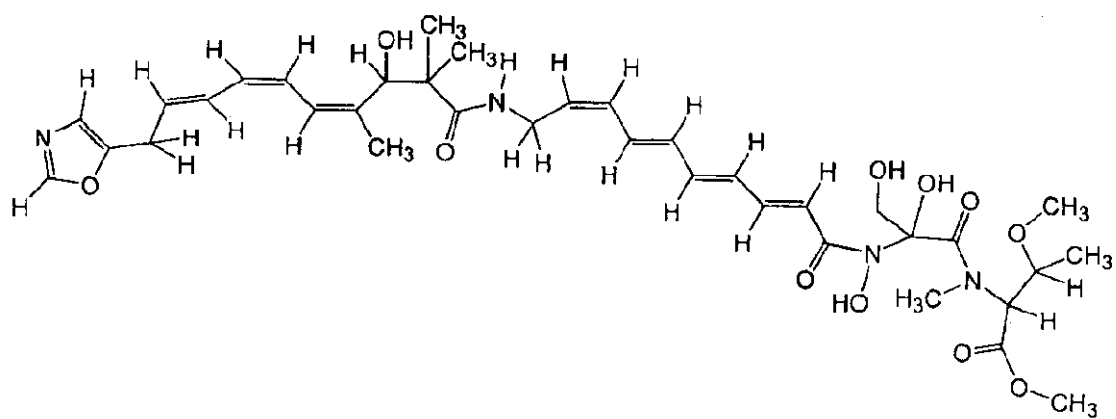
R^1 が、 $-C(O)C_1 \sim 6$ アルキル、 $-C(O)C_2 \sim 7$ アルケニル、又は $-C(O)C_6 \sim 10$ アリールからなる群から選択される、請求項 1 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩。

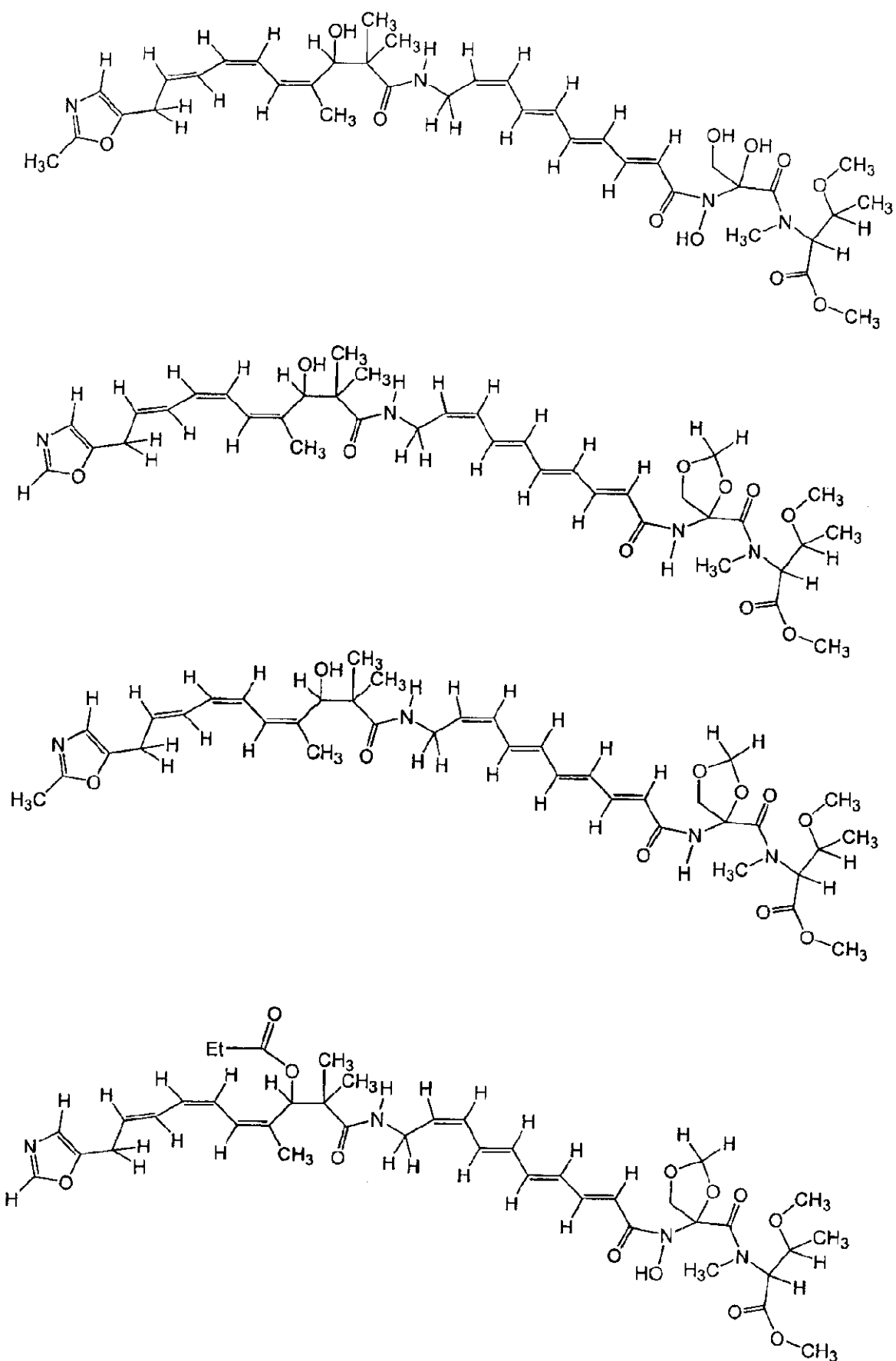
【請求項 5】

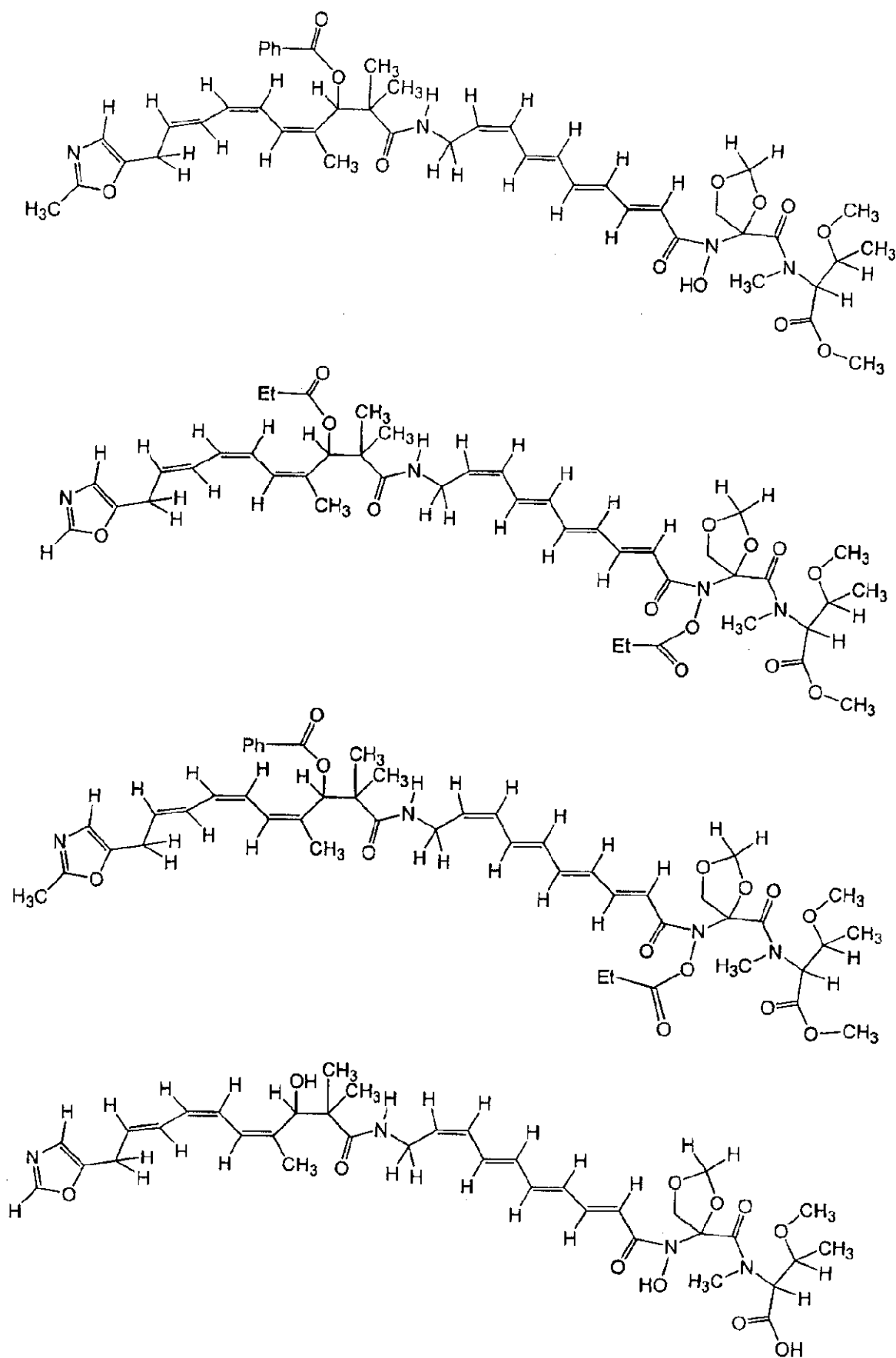
次式からなる群から選択される請求項 1 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩。

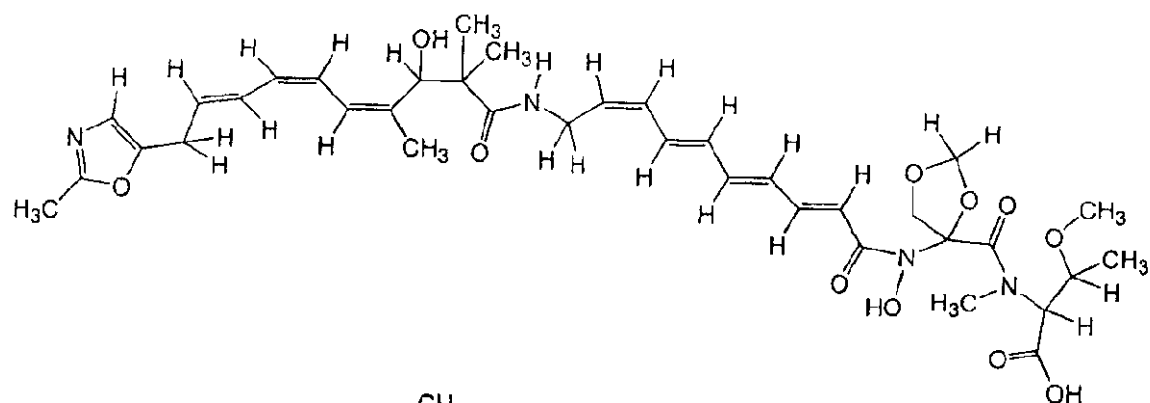
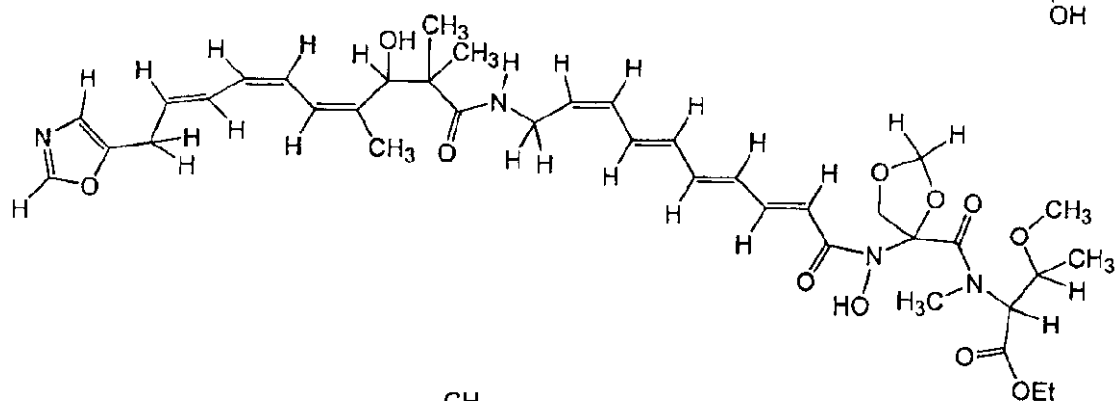
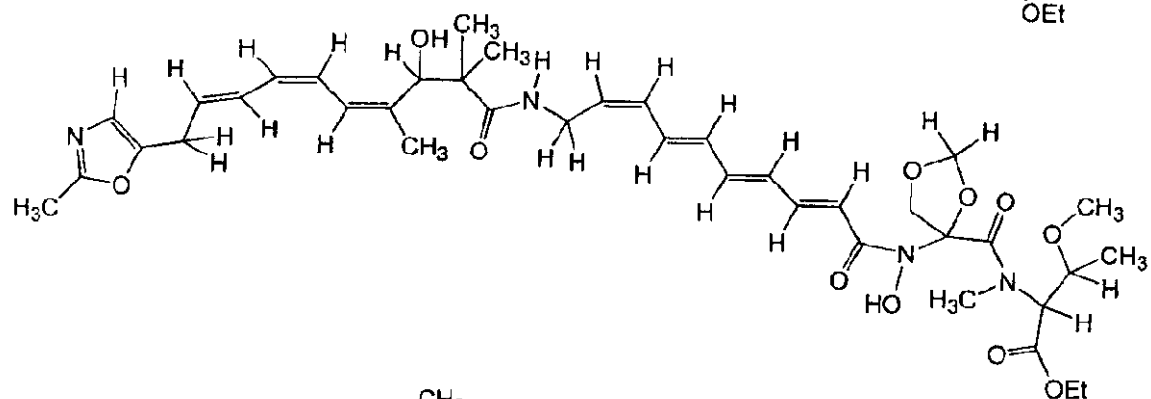
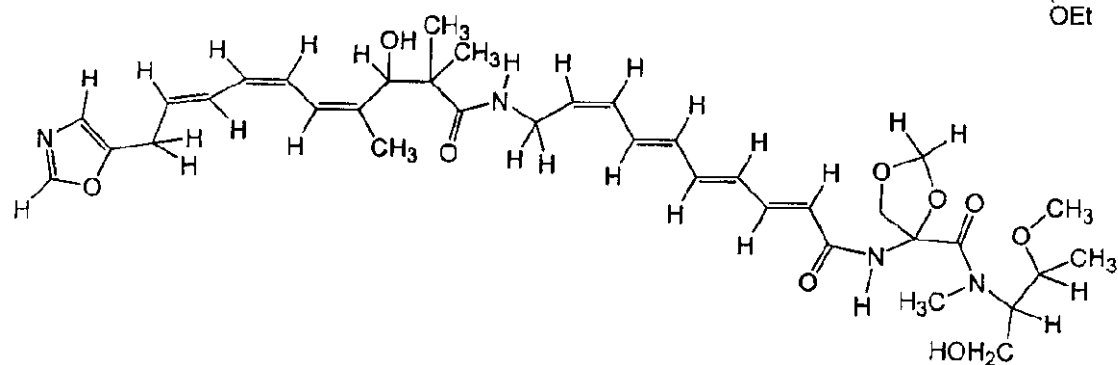
【化 3】

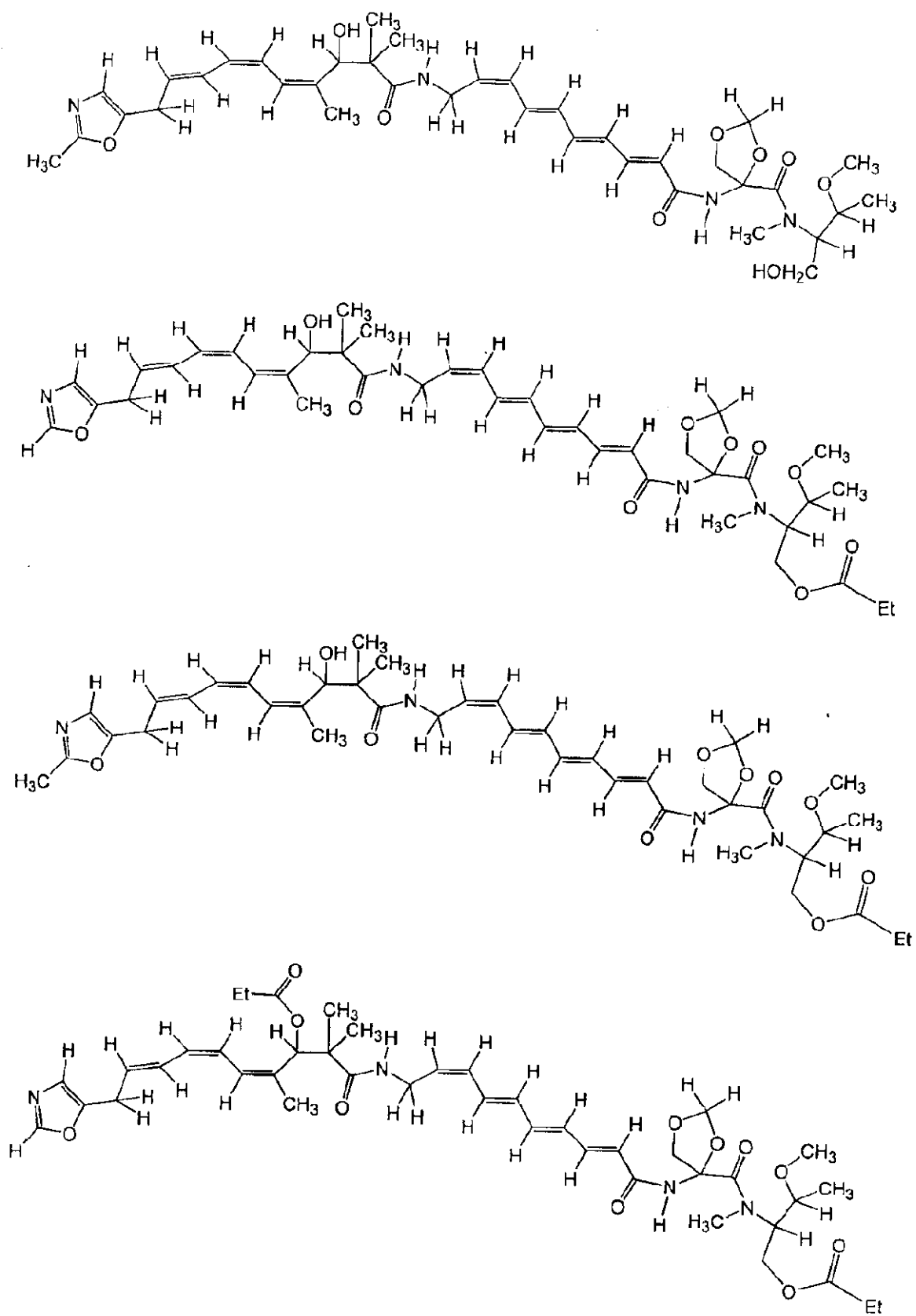


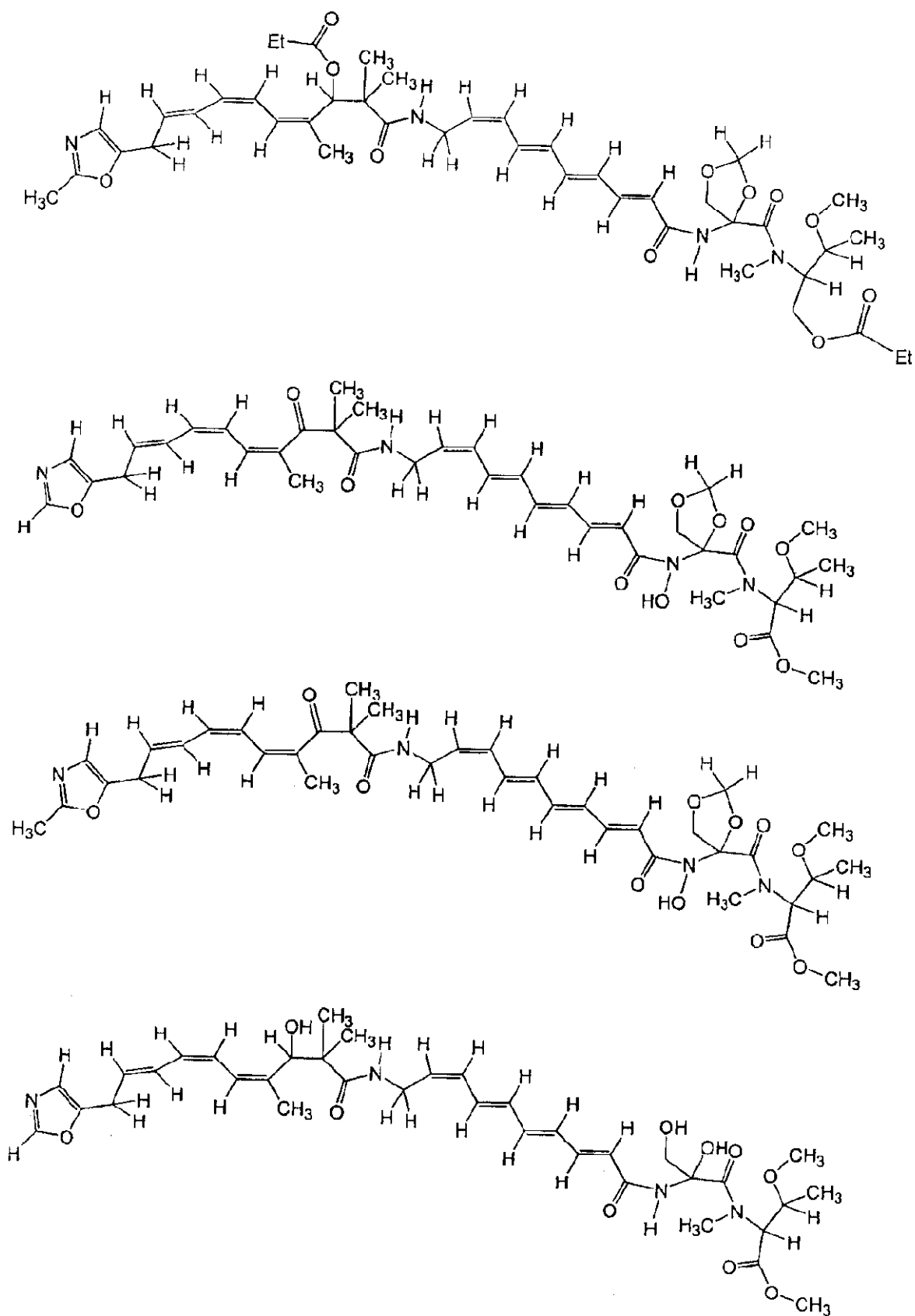


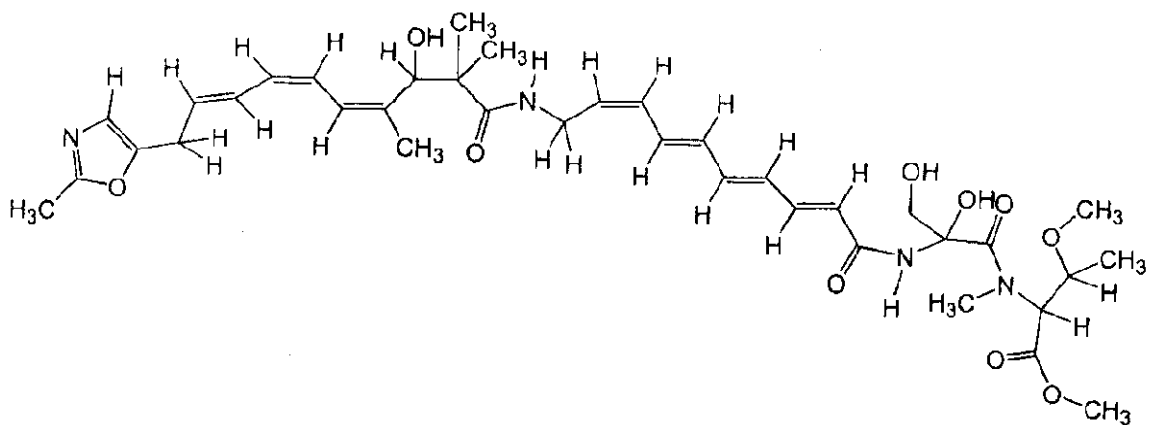








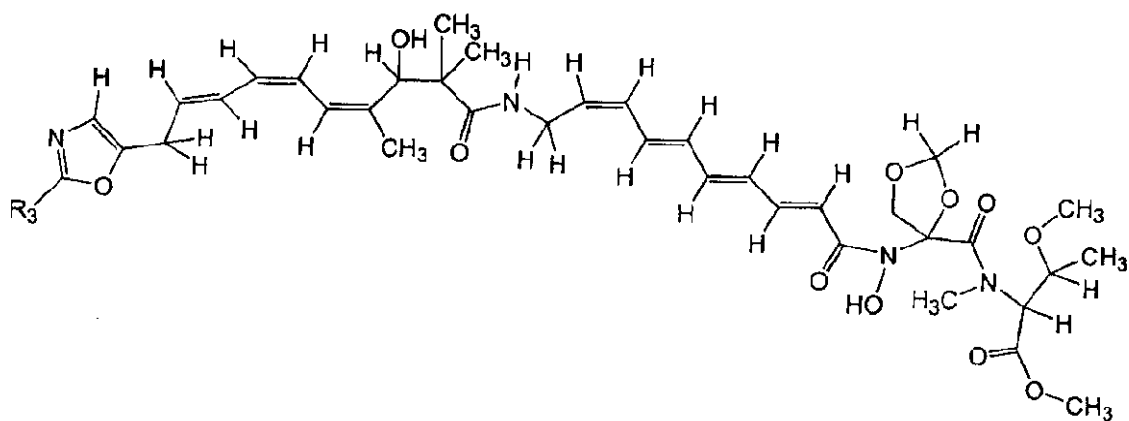




【請求項 6】

次式の化合物である請求項 1 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩。

【化 4】

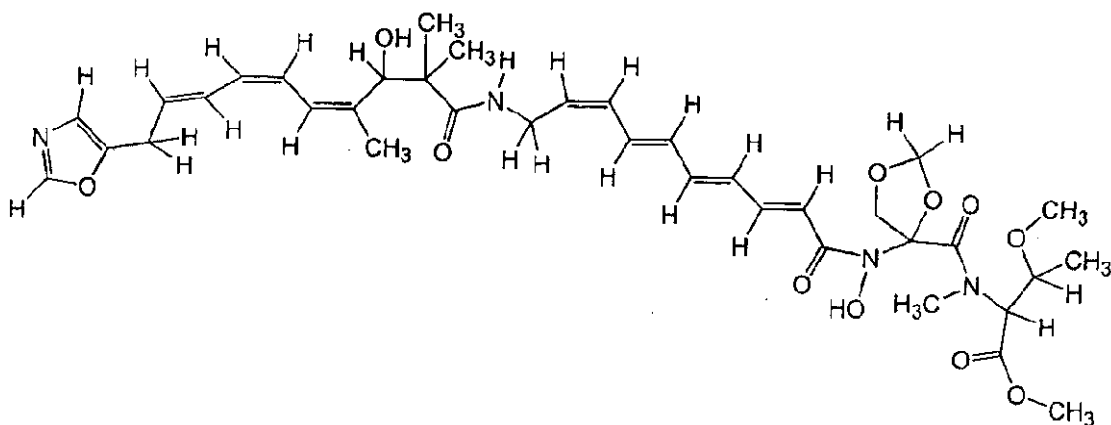


[式中、 R_3 は、H 及び CH_3 から選択される。]

【請求項 7】

次式の化合物である請求項 6 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩。

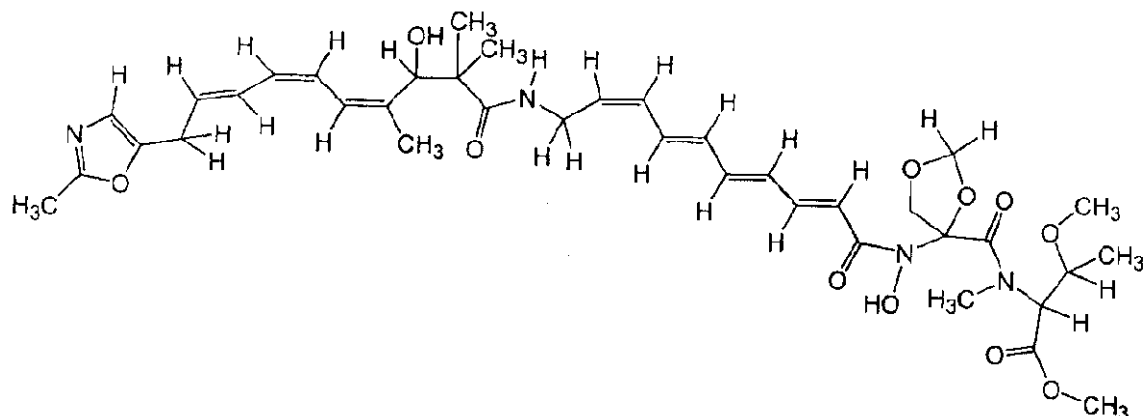
【化 5】



【請求項 8】

次式の化合物である請求項 6 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩。

【化 6】



【請求項 9】

請求項 6 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩と、薬剤として許容される担体とを含む薬剤組成物。

【請求項 10】

請求項 7 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩と、薬剤として許容される担体とを含む薬剤組成物。

【請求項 11】

請求項 8 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩と、薬剤として許容される担体とを含む薬剤組成物。

【請求項 12】

請求項 5 に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩と、薬剤として許容される担体とを含む薬剤組成物。

【請求項 13】

請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩と、薬剤として許容される担体とを含む薬剤組成物。

【請求項 14】

(a) 好気性条件下、少なくとも 1 種の炭素原子供給源及び少なくとも 1 種の窒素原子供給源を含む栄養培地でストレプトミセスパルソゲネス株を培養するステップと、
(b) ステップ a) で培養した菌株からポリエンオキサゾールを単離するステップとを含む方法によって得られる、本質的に図 3 に示すようなプロトン NMR スペクトルを生じるポリエンオキサゾール。

【請求項 15】

(a) 好気性条件下、少なくとも 1 種の炭素原子供給源及び少なくとも 1 種の窒素原子供給源を含む栄養培地でストレプトミセスパルソゲネス株を培養するステップと、
(b) ステップ a) で培養した菌株からポリエンオキサゾールを単離するステップとを含む方法によって得られる、本質的に図 4 又は図 5 に示すようなプロトン NMR スペクトルを生じるポリエンオキサゾール。

【請求項 16】

少なくとも 1 種の炭素原子供給源及び少なくとも 1 種の窒素原子供給源を含む栄養培地でのストレプトミセスパルソゲネス株の培養と、化合物の単離及び精製の各ステップを含む、請求項 6 に記載のポリエンオキサゾールの製造方法。

【請求項 17】

ストレプトミセスパルソゲネス株が NRRL 2940 又はその突然変異体である、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 18】

突然変異体が菌株 [S03] 022 (寄託アクセッション番号 IDAC 270504 -

04)である、請求項17に記載の方法。

【請求項19】

好気性条件下で培養を行う、請求項16から18のいずれか一項に記載の方法。

【請求項20】

炭素原子供給源及び窒素原子供給源が表1に示す成分から選択される、請求項16から19のいずれか一項に記載の方法。

【請求項21】

培養を18℃～40℃の範囲の温度で実施する、請求項16から20のいずれか一項に記載の方法。

【請求項22】

培養を6～9の範囲のpHで実施する、請求項16から21のいずれか一項に記載の方法。

【請求項23】

IDACアクセッション番号270504-04のストレプトミセススパルソゲネス。

【請求項24】

請求項1から5のいずれか一項に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩を有効成分とする抗腫瘍剤。

【請求項25】

請求項6から8のいずれか一項に記載の化合物又は薬剤として許容されるその塩を有効成分とする抗腫瘍剤。

【請求項26】

請求項9から11のいずれか一項に記載の薬剤組成物を含む抗腫瘍剤。

【請求項27】

請求項12又は13に記載の薬剤組成物を含む抗腫瘍剤。